

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問調査)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問調査)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	47人	算数	47人	理科	47人
第5学年	国語	40人	算数	40人	理科	40人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

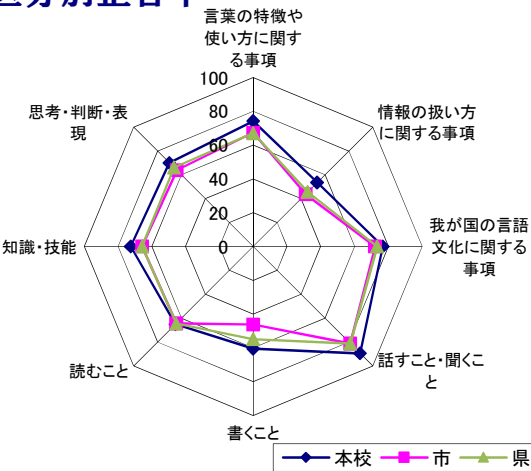
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西原小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	74.2	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	53.5	43.8	45.7
	我が国の言語文化にに関する事項	76.7	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	89.5	81.2	81.2
	書くこと	60.5	46.2	54.9
観点	読むこと	65.1	64.3	64.5
	知識・技能	72.5	65.7	65.7
	思考・判断・表現	70.1	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

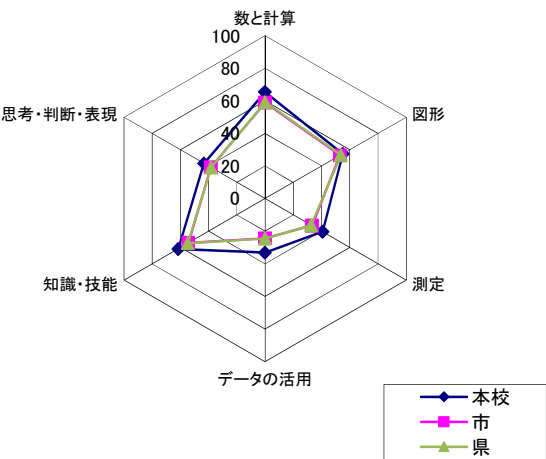
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	県の正答率を7.1ポイント上回っている。 ○漢字を正しく読んだり書いたりする設問の正答率は県や市の平均を上回っている。また、ローマ字を読む問題では、県の正答率を17.1ポイント上回っている。 ●対義語を選ぶ問題は、県の正答率を5.9ポイント下回った。また、主語と述語の関係を選ぶ問題の正答率は67.4%と県の平均正答率と同等であった。文章の中で言葉の使い方に課題が見られる。	・漢字の学習の際には、漢字の持つ意味を捉えさせて取り組ませている。また文章の中で使えるよう、その都度指導していく。 ・文章を書いたり読んだりする際、助詞などに印をつけたり、言葉の関係を線で表したりして、主語や述語を意識させながら学習に取り組ませていく。
情報の扱い方にに関する事項	県の平均正答率を7.8ポイント上回っている。 ○国語辞典の使い方を正しく理解し、使うことができる。 ●正答率が53.5%と低く、複数の意味を持つ言葉の中で、適した意味を選択する力が不十分であると考えられる。	・国語辞典や漢字辞典に触れる機会を多く設定し、語彙を増やすようにする。また、様々な意味の中から、文脈を把握して正しい情報を選択できるようにする。
我が国の言語文化にに関する事項	県の平均正答率を3.3ポイント上回っている。 ○漢字の成り立ちや、へん・つくりを意識して漢字を指導してきた結果であると言える。	・新出漢字の学習の際には、引き続き、部首やつくりなどを意識させ、熟語や文章の中での使い方などに気を付けながら指導を行っていく。
話すこと・聞くこと	県の正答率を8.3ポイント上回っている。 ○相手の話したいことの中心を捉えて聞くことができるようになってきている。また、自分の考えを理由を挙げながらまとめる問題では、正答率が93%、無解答率が0%と自分の意見を理由を挙げて話せる児童が多かった。	・様々な学習活動で、自分の意見を理由を挙げながら話し、相手の考えやその根拠となることを聞き逃さずに話し合い活動を行っていく。また、一人ひとりの話す機会を増やすよう、学習形態を工夫した授業展開を行っていく。
書くこと	県の正答率を5.6ポイント上回っている。 ○自分の考えとそれをささえる理由や事例を明確にし文章を書くことができるようになってきている。 ●2段落構成で書く問いでは、県や市の正答率を上回っているが、44.2%と低い。また、無解答率も16.3%と多く、課題が見られる。	・文章を書く時には、段落の役割や自分の考えの表現の仕方、またそれを理由を述べながら書き進めるなど、細かく丁寧に指導を繰り返しながら行っていく。 ・日頃から短文で自分の意見を述べる機会を増やしていく。
読むこと	県の正答率とほぼ同等である。 ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有する問題では、県の平均を13.6ポイント上回っていてよくできていた。 ●叙述を基に文章の内容を捉えたり、中心となる語や文を見付けて要約する問題では、県の平均を下回った。また、無解答率が県より高く、課題が見られる。	・物語文では、叙述から人物の気持ちの変化を捉えられるように、気持ちを表す言葉や文について考えたり、場面の様子を想像したりするような授業展開を行っていく。 ・説明文を読むときには、話の中心を見付けたり、大切な言葉を見付け抜き出したりする活動を時間を取って行う。

宇都宮市立西原小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.4	58.9	59.2
	図形	55.0	53.0	53.7
	測定	40.7	33.1	32.6
	データの活用	33.1	24.4	24.6
観点	知識・技能	61.6	54.3	54.7
	思考・判断・表現	43.3	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

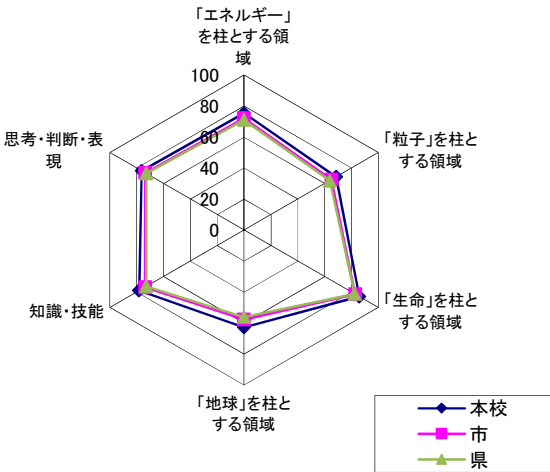
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	正答率は県や市の値より高かった。 ○数直線を使って表す数の大きさについて理解し、分数で表すことがよくできている。 ●大きな数の表し方を問う問題に課題が見られた。	・生活の中で体験的に数の大きさを捉えられるよう、今後とも機会を設けていき、数量感覚を養っていく。 ・問題では、基準となる数値の何倍がいくつになるのかといった内容で間違いやすいものであった。どのようにして考えるとよいか共に検討し、図や表など理解しやすい形に問題を捉えなおすことの良さなどに気付けるよう支援をしていく。
図形	本校の正答率は県や市の値より高かった。 ○半径と直径について理解し、球の性質を利用し長さを求めることがよくできている。 ●円の性質を利用して、正三角形を作図することに課題が見られる。三辺の長さが異なる三角形を描いてしまったり、無解答になってしまったりした児童が多く、円の性質を利用して考えることに困難を感じていると考えられる。	・算数で使われる用語の理解がしっかりとできており、答えを導き出すことができていた。授業後の自主学習で、新しく出てきた用語のまとめを行っている児童もあり、そういった素晴らしい取り組みを全体に広げていく。 ・正三角形の作図のような白紙の上であれば解けていた問題でも、問われ方や条件が異なっていると既習内容と結びつけて考えることが難しい。日々の授業の中でも機会を見て、そういった問題に触れさせていき、知識を生かせるようにしていく。
測定	本校の正答率は県や市の値より高かった。 ○時間と時刻を理解し、時間を求めることがよくできていた。日々の生活においても、時間を意識して行動できている児童が多いことが正答率の高さにつながったように考えられる。 ●重さの単位を理解し、合計の重さの大小を比較することに課題が見られる。	・授業の中だけでなく、学校生活の様々な場面において、あと何分や何分後といった言葉を頻繁に使っている姿が見られていた。そういった経験が積み重なって、今回の結果につながったように思う。引き続き児童が学びを生かしている場面を称賛していく。 ・重さの単位を揃えて考える際に、それぞれの単位の関係性を誤って覚えてしまっている児童が見られた。再度、「t・kg・g」といった大きさのつながりについて確認するとともに、他教科の学習とも絡めて単位変換に慣れさせていく。
データの活用	本校の正答率は県や市の値より高かった。 ○適切な棒グラフから、示された値を読み取ることがよくできていた。 ●棒グラフの特徴と利点を理解し、身の周りの事象について活用することに課題が見られる。県や市の平均は上回っていたが、記述式の問題のためか無解答も多く見られた。	・棒グラフの読み取りはできていたものの、棒グラフの利点を考えて説明することには難しさを感じている児童が多く見られた。また、無解答になってしまっていた児童も多く、自分の考えを表現することに苦手意識がある児童が多いことが分かる。学習の振り返りなど、自分の考えを表しやすい活動から始めていき、苦手意識の改善に取り組んでいく。

宇都宮市立西原小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	75.4	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	68.6	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	85.8	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	62.8	57.7	56.2
観点	知識・技能	78.1	73.8	72.8
	思考・判断・表現	76.2	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	本校の正答率は市や県の値より高い。 ○磁石に引き付けられる物を選ぶ設問での正答率は95%を超え非常によく理解できている。また、音の伝導に関する設問やゴムの力が車の動く距離にどう作用するかに関する設問では、市や県の平均正答率を約10%上回っており、十分に理解できていると言える。 ●黒い紙に虫眼鏡で日光を集めたときの明るさとあたたかさの関係については、正答率が60%とやや低い。	・実験を行うときには、実験の目的をよく理解したうえで取り組むようにする。そして、得られた結果をまとめ、考察を文章でまとめる時間をできるだけ設定し、自分の考えの根拠となった理由を適切に表現できるよう指導していく。
「粒子」を柱とする領域	本校の正答率は市や県の値より高い。 ○紙の形を変えたときに重さがどうなるかについての設問では正答率が90%を超えており、非常によく理解できている。 ●同じ体積の3種類のおもりの重さを比べる実験に関する設問では、市や県の平均を上回っているものの、正答率が46.5%と低い。	・実験結果からどのようなことが読み取れるか考える時間を十分に取し、それをもとに考察させるなど、丁寧に指導する。 ・学習した内容について身近な出来事と関連づける工夫をする。生活場面を具体的に想起させ、必要に応じて再現して印象づける。
「生命」を柱とする領域	正答率が85%を超えており、市や県の平均より高い。 ○植物の体のつくりや生長に関する設問や昆虫の体のつくりや育ちに関する設問では、正答率が90%を超えるものも多く、よく理解できている。 ●虫眼鏡の使い方に関する設問は、市や県の平均を上回っているものの、正答率が58.1%とやや低い。	・植物や動物の体のつくりや生育、成長については、いくつかの種類の動植物を実際に観察させる。その際、いくつかの視点を意識させながら観察することで、理解を深められるようにする。 ・虫眼鏡の使い方については、他の単元や教科においても触れさせ、何度も使用することで正しい使い方を身に付けさせるようにする。
「地球」を柱とする領域	本校の正答率は市や県の値より高いが、他の領域に比べて低くなっている。 ○影のできる向きから太陽の動く方位を考える設問では、正答率が県や市の平均よりも約20ポイント高くなっており、よく理解できている。 ●影のできる向きから影ふみで逃げる方向について考える設問では、正答率が市や県の平均よりも低くなっている。また、方位磁針の使い方の正答率もやや低い。	・まとめや振り返りでは、実験や観察から得られた結果を、身の回りのことなどにつなげて考えられるよう、いろいろな例を示し考えさせる。 ・方位磁針の使い方については、他の単元や教科においても触れさせ、何度も使用することで正しい使い方を身に付けさせるようにする。

宇都宮市立西原小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○本校の肯定的回答は、市の肯定的回答に比べて全体的に10ポイント以上高い。とくに児童の学習への意欲の高さや規則正しい生活への意識の高さが目立った。

○「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている。」という質問への肯定的回答の割合が市の平均と比べて20ポイント以上高かった。昨年度の本校4年生と比べても34ポイント以上高い。家庭学習の習慣化がなされ、自分に合った取り組み方が定着されたと考えられる。引き続き学習意欲や課題の質を高められるような支援を続けていきたい。

○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」と「できるだけ自分一人で課題を解決しようとしている。」という質問への肯定的回答の割合は、市の肯定的回答よりどちらも20ポイント近く高い。普段から学校課題である『自分事としてとらえる。』に準じた学習活動を続けた成果であると思われる。今後も児童の興味・関心がもてるような学習内容にしていきたい。

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」という質問への肯定的回答が市の値よりも28ポイント高い。児童と教師の信頼関係の高さが顕著に表れていると考えられる。

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている。」という質問への肯定的回答が市の値よりも25ポイント高く、また「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」という質問への肯定的回答が市の値よりも15ポイント高い。学校課題の『伝え合う力』を定着させるために教師の授業展開や児童の意欲の高さが見られる。今後も授業展開の工夫やICTなどを活用し、児童が互いに伝え合えるように支援をしていきたい。

○「算数の学習は好きですか。」の肯定的回答が市よりも17ポイント以上高く、「算数の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている。」の肯定的回答が市よりも19ポイント以上高い。算数の授業への意欲の高さと学校課題である『学び続ける』の意識の向上が見られる。今後も実生活や未来へつながるような学習課題の設定や授業のまとめを行うことでより充実した学習活動にしていきたい。

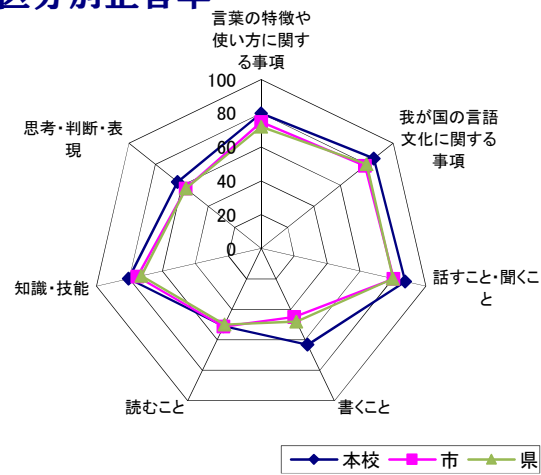
○「早ね、早起きを心がけている」の肯定的回答が市の平均よりも14ポイント以上高く、基本的生活習慣の定着が見られた。今後も懇談会などにおいて啓発を続けていきたい。

●「家で授業の復習をしている」という質問に対して、「全くしていない」の回答が市よりも12ポイント以上高い。家庭学習はしているが、授業の復習の大切さの意識が低いことがうかがえる。今後は、宿題や自主学習の在り方について、児童自身に考えさせるような機会を与えていきたい。

宇都宮市立西原小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	80.0	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	85.3	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	87.5	80.4	80.0
	書くこと	63.2	45.1	48.0
	読むこと	51.1	51.3	50.0
観点	知識・技能	80.5	75.2	72.8
	思考・判断・表現	63.2	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

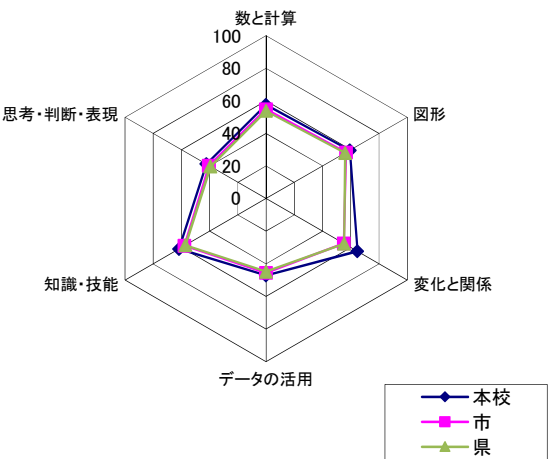
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市や県の平均より高かった。 ○既習の漢字の読み書きができています。 ●文の中における修飾と被修飾の関係を捉えることについての理解が十分ではない。	・朝の学習の時間や宿題で、繰り返し漢字の練習に取り組ませる。 ・修飾語には、連体修飾語(名詞を修飾する語)と連用修飾語(名詞以外の動詞や形容詞、形容動詞を修飾する語)の2種類があることについて指導し、係り受けを考える際の参考にできるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	今年度出題なし	
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市や県の平均より高かった。 ○慣用句の意味や用法についての理解ができています。	・朝の学習の時間や宿題で、慣用句の意味や用法を学ぶ機会を設定する。 ・慣用句の意味や用法調べの宿題を出し、発表する時間を作ることで、知識の定着を図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や県の平均より高かった。 ○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることができています。 ○話の中心を捉えることができています。	・学習の中に話合いの場面を多く設定するようにして、実践的に力を高められるようにする。 ・話合いでは、話の中心を明確に伝えるために工夫するよう助言する。 ・自分の考えを理由を挙げながら説明する場を、話合いや各教科の授業で設定する。
書くこと	平均正答率は、市や県の平均より高かった。 ○内容の中心を明確にして、事実と自分の考えを書くことについては正答率が高い。 ○段落の役割について理解し、2段階構成で文章を書くことができています。	・国語の時間を中心に、自分の伝えたいことの中心を明確にして文章を書くように指導する。 ・段落の役割について確認し、段落の構成を考えながら文章を書くことができるように引き続き指導する。
読むこと	平均正答率は、市や県の平均より高かった。 ○登場人物の気持ちの変化について、具体的に想像することができています。 ●叙述を基に、文章の内容を捉えることに課題がある。	・教材文や本を読んで、あらすじをまとめて伝え合う場を設定する。その際、相手に自分の考えを伝えるには、どのように表現すればよいのか考えさせる。

宇都宮市立西原小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	57.6	54.9	53.7
	図形	59.3	56.6	56.1
	変化と関係	64.7	55.1	55.2
	データの活用	47.1	45.5	44.8
観点	知識・技能	61.8	57.8	57.2
	思考・判断・表現	42.4	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

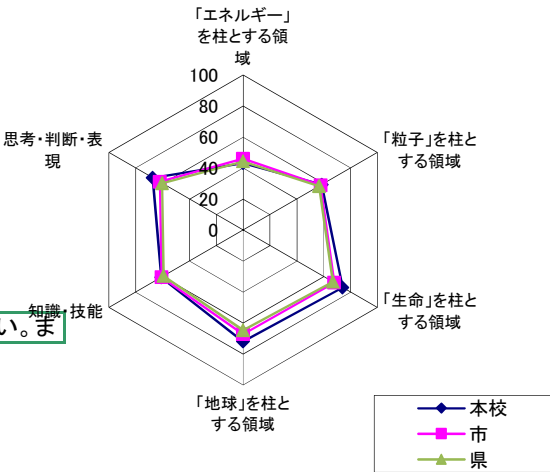
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	本校の正答率は、市や県の正答率より高い。 ○大きな数の表し方や小数のしくみ、整数の割り算の計算の正答率は、県や市の平均より高くよく理解していると分かる。 ●数直線を見て仮分数に表す問題や帯分数と仮分数が混ざった計算の問題になると、県や市の平均より正答率が低く、分数単元は、理解を深める必要がある。 ●一問一答形式の問題の回答率は高いが、考え方の説明の問題になると無回答率が高くなる。思考力については課題がある。	・分数の単元を行う際には、既習内容の復習に取り組んだ上で授業を進める。また、分数の仕組みを理解できるように図や数直線などの資料を活用し、工夫して指導していく。 ・思考力向上のために、授業では「どうしてその式、答えになるのか」の理由を考える時間、共有する時間を取りながら行う。
図形	本校の正答率は、市や県の正答率より高い。 ○立体の辺と面の位置関係の問題と複雑な形の面積を求める問題の正答率は、県や市の平均より高くよく理解していると分かる。 ●立体の展開図の問題では、県や市の平均より正答率が低く、空間認知力が弱いと考えられる。 ●三角定規の角度や平行四辺形の作図の問題では、県や市の平均より正答率が低く、課題が見られる。	・立体の単元では、実物を用意し、視覚的に見たり触ったりして量感、奥行きをつかめるようにする。 ・作図の問題では、作図する形の性質や特徴を確認し、その性質を作図するためにはどんな用具を使い、どのように書けばよいのか考えながら行う。
変化と関係	本校の正答率は、市や県の正答率より高い。 ○変化と関係に関する問題の正答率は、すべて県や市の平均より高く、よく理解していると分かる。 ○表を横に見ることで、伴って変わる2つの数量の関係を読み取ることにについては理解できている。 ○割合の仕組みや割合を使った比べ方の説明については理解できている。 ●表を縦に見て、伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題の無回答率が県や市の平均より高い。□や○になったとたん分からなくなる児童が多いと考えられる。	・伴って変わる数量の関係を学ぶ際は、表を縦で見た場合と横で見た場合の変わり方のきまりを見つけさせる時間を十分に与える。また、一方の値が変化すると、もう一方の値がどのように変化するのか2つの数量関係を調べ説明する活動を今後も行っていく。 ・割合の問題では、「もとになる量」をしっかり押さえながら解けるように指導をしていく。
データの活用	本校の正答率は、市や県の正答率より高い。 ○二次元表の読み方についてよく理解している。 ●折れ線グラフと棒グラフから変化の様子を読み取ることにについては、課題が見られる。グラフの縦と横の値を見ず、傾きや棒の長さだけで判断している児童が多いと考えられる。	・グラフから読み取る問題を解く際には、縦と横の値をよく見て、1メモリの値を理解してから判断することを十分に指導する。 ・複合グラフの場合では、右と左に書いてある単位や数はどちらのグラフなのかを判断できるように今後も指導していく。

宇都宮市立西原小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	43.1	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	58.5	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	74.1	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	71.9	67.2	64.6
観点	知識・技能	61.1	60.8	59.2
	思考・判断・表現	67.4	62.1	60.4

平均正答率は、県や市の平均より低い。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均より低く、且つ他の領域に比べて平均正答率が低い。 ○電流が同じ大きさの回路を選ぶ問題では、正答率が52.9%で、市の平均より6.5ポイント高い。 ●簡易検流計の針のふれ方から分かることを答える問題では、正答率が23.5%で、市の平均より7.8ポイント低い。	「電気のはたらき」では、電池の数や回路(直列つなぎ・並列つなぎ)によって電流の流れる向きや量が変わる等、実験を中心に基本を身に付けさせる。特に、簡易検流計の針の振れる向きが電流の向き、針の振れ具合が電流の大きさを表すしくみを押さえる。そして、実験の後にプリントなどで演習問題に取り組みさせるなどして定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均よりやや高い。 ○金属の温度と体積の変化について選ぶ問題では、正答率が97.1%で市の平均より9.9ポイント高く、身近な出来事(ジャムの瓶のふたを温める)と関連付けて答える問題では、正答率が38.2%で市の平均より2.2ポイント高い。 ●とじこめた空気と水の性質について答える問題では、正答率が55.9%で市の平均より7.8ポイント低い。	・実験を行うときには実験の目的をよく理解させてから準備をさせたり取り組ませたりする。また、予想を立てるときには、予想が正しかった時に得られる実験結果まで考えさせ、見通しをもって実験に取り組ませる。 ・閉じこめた空気と水の性質や金属をあたためたときの体積の変化を身近な出来事と関連づける工夫をする。生活場面を具体的に想起させ、必要に応じて再現して印象づける。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○夏のヒョウタンの伸びを正しく表したグラフを選ぶ問題では、正答率が85.3%で、市の平均より4.9ポイント高い。 ●季節の順に並べたイチオウの記録を選ぶ問題では、正答率が41.2%で、市や県の平均より高かったものの、季節と植物の様子についての理解に課題が見られる。	・実物を観察できるものは正答率が高かったので、学校の環境を生かした観察はできるだけ実物に触れさせるようにしていく。 ・季節ごとの身近な植物の成長を1年間のスパンで整理する活動を丁寧に行う。観察記録と季節ごとの写真を結び付けてまとめる。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○水蒸気が冷やされることで水になることを答える問題では、正答率が61.8%で市の平均より8.1ポイント高い。 ●月の動き方を理解し、午後9時の観察記録を選ぶ問題では、正答率が58.8%で、市の平均より6.8ポイント低い。	・まとめや振り返りでは、実験や観察から得られた結果を、身の回りのことなどにつなげて考えられるようにさせる。 ・月の観察は授業中にはできないので、宿題等で実際に見る活動を行う。また、動画やPCのアプリなどで関心を高めるとともに理解を深めさせる。

宇都宮市立西原小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定的回答が95ポイントで、県平均より13.3ポイント高い。担任や教科担当教員が授業を工夫し、児童が学びの面白さや楽しさなどを感じていることがうかがえる。今後も継続していけるよう努力していければと思う。

○「学校の宿題は、自分のためになっている」と「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定的意見は、共に97.5ポイントと高く、県の平均より、それぞれ2ポイント以上高かった。また、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の項目においても、肯定的回答が82.5ポイントで、県平均を8.5ポイント上回っている。このことから、学習することに対して、前向きに捉えていることが分かる。宿題についての項目でも、ほとんどの児童は必要性を感じて宿題を行い、学習に取り組んでいると考えられる。今後も、学習が授業内に留まらず、様々な場面との繋がりを感ぜながらできるように進めていきたい。

○「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」の肯定的回答が市の平均よりも5.1ポイント高かった。今後も、様々な教育活動の中で児童が達成感を味わえるような機会を作っていきたい。

○「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」の肯定的回答が市の平均よりも2.5ポイント高かった。また、「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」という質問への肯定的回答は、市の平均と比べて6.8ポイント高かった。地域や世の中とつながっているという意識が育っていると思われる。今後も、朝の会でニュースについて話をしたり、社会の授業等でニュースについて取り扱ったりして、引き続きニュースを見ることを啓発していきたい。さらに、地域を題材にした学習や行事、地域ボランティアの活用、社会の出来事を取り入れた授業など、児童が社会をより身近に感じられるような活動をこれからも進めていきたい。

●「家で、テストで間違えた問題について勉強している」では、肯定的回答が県平均よりも2.6ポイント高く、67.5ポイントだった。高学年となった第5学年は学習内容も多いため、間違えた問題については必ず復習したいところである。個人で復習やテストの見直しをすることが難しい児童に対してのフォローが必要であると考え。

●無回答の問題の中には、記述式のものが多く、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と感じている児童が6割以上いることから、記述式の問題に苦手意識があることが分かる。こちらについては、普段の授業内で書く学習をしているだけでは、対応が難しい児童もいることが考えられるので、問題に応じてどのように書いたらよいのかをトレーニングする時間を設けていく。

●「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」の肯定的回答が市の値よりも7.4ポイント低かった。また、「早ね、早起きを心がけている」の肯定的回答が市の平均よりも2.9ポイント低かった。高学年になり、様々な要因から基本的生活習慣の乱れがうかがえる。運動、食事、睡眠という基本的生活習慣を整えることで、学習意欲や体力、気力の向上へとつながることを、保健の学習や日常生活の中で継続して伝えていきたい。また、懇談会やたよりを活用して、家庭にも啓発を続けていきたい。

宇都宮市立西原小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎・基本の確実な定着、児童の実態に応じたきめ細かな指導	・西原小「学習の約束」をもとに、基本的な学習態度を身に付けることができるよう、全教職員で共通理解を図っている。また、3～6年生は週に3回の朝の活動の時間をモジュール学習として確保し、指導計画表にも位置付けることで基礎基本の確実な定着を図る。	・漢字の読み書きについては、4・5年生ともに正答率が市や県の値よりも高いものが多かった。無回答率に関しても、とくに4年生の結果は県や市よりも低かった。学年が進むにつれ、学習内容も難しくなり、学力の定着も困難になってくるので、習熟度別の学習や日々の授業やモジュールなど朝の学習の時間の確保、家庭学習の指導の在り方を見直し、学校全体できめ細やかな指導を行っていく。
・主体的・対話的で深い学びを実現するため、伝え合う力が向上するような授業の展開	・昨年度までの児童が学びの実感を得られるような授業展開や、今年度のキーワード「伝え合う力」を伸ばすことができるような一人一授業の実践、それに伴った授業研究会を行う。 ・児童自身が課題を自分事にし、主体的に取り組むことができるようなめあてや問いのめたせ方、児童が進んで学び続けたいくなるような振り返りの仕方など、授業の展開を工夫する。	・「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答の割合が、県や市や値よりも高い。「学び続ける児童の育成」を研究してきた成果であると言える。授業の復習については、家庭学習などで進んで行っている児童が多いが、授業の予習をしている児童が比較的少なめであった。次の授業に興味をもち、主体的に取り組めるよう、次時に繋がるような振り返りの仕方などを工夫していきたい。